

3 各教科等におけるキャリア教育の進め方

キャリア教育の視点から「学ぶ」を充実させる

キャリア教育プログラムの多くは、職場見学・職場体験や職業に関する調べ学習といった、職業や仕事について直接的に学ぶものになっています。学校行事や総合的な学習の時間に行われるこうした体験や学習はもちろん大切ですが、「社会的・職業的自立に向け、必要となる資質、能力、態度を培う」ことを目的とするキャリア教育は、学校で行っている各教科等の指導の場で、日常的に行うことが大切です。

学校教育で養う「生きる力」や「基礎・基本」は、将来、自立した大人として社会で働くために必要不可欠な知識・能力であり、児童・生徒のキャリア形成には各教科等の学習内容も大きく関わっています。例えば、国語で自分の意見を書いたり話したりすることも、理科の実験やその結果分析を仲間と協力して行うことも、キャリア教育の1つです。また、仕事をする上での専門的な知識も、その多くは学校教育で学ぶ各教科等の学習内容を深化・発展させたものであり、学校で「学ぶ」内容や「学ぶ」体験が、将来の職業選択のきっかけや手がかりになることもあります。

こうしたことを意識し、授業構想を見直したり、指導方法を工夫したりすることによって、キャリア教育の視点から学校での「学ぶ」を充実させることができます。

キャリア教育の視点を生かし、
授業構想や指導方法を工夫しましょう！



(1) 各教科等の「学ぶ」を充実させるキャリア教育のアプローチ

①全体計画等を共通理解し、各教科等との相互の関連を意識して進める

各教科等の授業をキャリア教育の視点で捉え直すことは、キャリア教育の全体計画や年間指導計画を把握することから始めます。校内の全教職員の英知を結集し、体系的・系統的なキャリア教育を展開するためには、自校の児童生徒の実態、目指す児童生徒の姿、指導のねらいと方向性について、全教職員が共通の認識をもつことが不可欠です。そのために、自校におけるキャリア教育の計画を踏まえ、各教科等の学習内容や指導のねらいを、全教職員の共通理解のもとに関連付けていくことが重要になります。中学校・高等学校では教科担任制ですので、教科ごとのキャリア教育は充実させやすいのですが、各教科等との相互の関連を図った学校全体でのキャリア教育推進が難しくなる傾向にありますので、この点に特に留意する必要があります。



校内の全教職員で、キャリア教育の
全体計画等の作成、見直しをしましょう。

②日常生活・職業・将来との関連に気付かせる～学ぶ内容からのアプローチ～

各教科等で学ぶ内容が「日常生活のどんなところに活用されているのか」「その知識を必要とするのはどんな職業か」「社会に出た時にどんな場面で役に立つのか」などを、単元の導入やまとめの段階に加味して教えたり、本時で学ぶ内容を実際に活用している職業人の話を聞かせたりすることで、学習内容と日常生活・職業・将来との関連付けを図ることができます。

実際に社会の中でその知識や技能を活用している職業を知ること、学習することの意義を理解し、児童生徒の学習意欲が高まることも期待されます。教師の説話、教材や学習課題の工夫、ゲストティーチャーの協力、新聞記事や映像資料の活用などによって、「なぜ、何のために学ぶのか」「何を、どのように学ぶべきなのか」といったことに児童生徒が気付き、学習することの意義を、納得感や実感を伴って理解できるよう配慮することで、児童生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立がより一層促されます。

児童生徒にとって、将来の社会的・職業的自立に向けて必要な「学ぶ」は、自己実現のために主体的に学ぶ態度、能力です。学ぶ内容の価値や学ぶことの意義についての自覚がはっきりしないままに、教師の指示や発問、説明に従って進められる学習よりも、児童生徒が自分自身の生き方と関連付けて学ぶ意義や学習内容の価値を理解し、内発的な学習意欲の裏付けに支えられて進めていく学習の方が、効果的なものとなります。キャリア教育の視点を生かした学ぶ内容からのアプローチを、授業改善の手立てとして取り入れていくことは、児童生徒の主体的な学びの促進へとつながっていきます。

③培う資質、能力、態度の視点から指導方法を工夫する～学ぶ方法からのアプローチ～

キャリア教育で培う資質・能力・態度には様々なものがあります。各教科等の授業における学習活動をそれらの力を育成する活動として捉え、学習活動に対する指導方法を工夫することも、キャリア教育推進の重要な手立てになります。

例えば、各教科等の学習過程において、協同で解決する学習課題を設定し、グループワークで解決させることで、【他者につながる力】（人間関係形成能力）や【動く／生かす力】（課題対応能力）等の能力を培うことができます。また、時間制限等の条件やルールを設けることで【自己を見つめる力】（自己管理能力）を鍛えることもできます。

与えられた課題を各自が指示通りこなしていく活動だけでなく、よりよい解決方法を話し合ったり、協調性をもって段取りよく進めたり、多角的な分析や考察の仕方に気付いたり、役割分担や合意形成によって解決策を生み出したりする活動によって、キャリア教育で培いたい資質・能力・態度を高めていくことができます。

こうした学ぶ方法からのアプローチは、すべての学習活動で取り組むことができ、これにより教育活動全体を通したキャリア教育の推進が図られることが期待されます。



②の「学ぶ内容」と③の「学ぶ方法」の2つの側面から考えましょう。



④自分との関わりを実感させる指導の工夫や魅力的な教材開発を進める

『キャリア教育の指針<総論編>』では、培いたい資質、能力、態度を支える心として、【自分自身を大切に思う気持ち】と【ふるさとを誇りに思う気持ち】の醸成を求めています。

【自分自身を大切に思う気持ち】とは、自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識することであり、誰かの役に立ちたい、誰かに必要とされているといった、他者の存在を前提として自分の存在価値を感じる気持ちです。また、【ふるさとを誇りに思う気持ち】とは、郷土のよさを知るとともに、他の地域・異なる文化との違いを知り、自分の生まれ育った郷土に愛着を感じる気持ちです。

こうした気持ちは、青年期の自我の確立の基礎として重要であり、地元の魅力や誇りを発信していく原動力ともなるものです。グローバル化の進むこれからの社会では、【自分自身を大切に思う気持ち】と【ふるさとを誇りに思う気持ち】を基盤にした資質・能力・態度の育成が一層重要になると考えられます。

各教科等の指導に当たっては、学習内容が自分の生活や生き方と結び付いているという実感をもたせるよう、課題提示やまとめを工夫したり、郷土の魅力や大切さを実感させる教材や題材を活用したりすることが有効です。こうした指導は、指導者の意識によってその成果が大きく左右されるため、指導者自身が学習の意義や価値の自覚を深めること、郷土のよさや魅力を実感していることが重要になります。そのため、より主体的に教材研究、教材開発に取り組むことが期待されます。

キャリア教育は、教員にとっても、自分の職業や社会に対する考え方を振り返る機会ともなるんですね。
(『キャリア教育の指針<総論編>』P9参照)

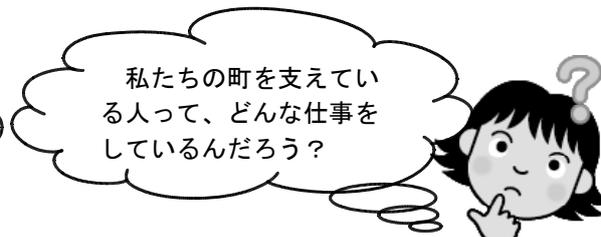


演習

各教科等の学習をする意義や価値について、児童生徒に納得させるには、どのように説明すればいいでしょう。
また、学校を支える地域の魅力、教育資源にはどのようなものがあるでしょう。
校内研修等の場で、先生同士互いにインタビュー形式で質問し合い、理解を深めてみましょう。



算数の勉強は、どんなことに役立っているんだろう？



私たちの町を支えている人って、どんな仕事をしているんだろう？

「地域で働く人に関心をもち、自分で考え行動する子を育てる」 生活科の授業例

青森市立東陽小学校

■ポイント

- ・保護者や地域の商店、関係機関との事前の連絡・調整に留意し、体験的な学習の効果を高めています。
- ・児童の自己選択・決定の機会を意図的に設定し、キャリア教育で培いたい資質、能力、態度を育むことにつなげています。

題材名 みんなのほっけんをあつめよう①（第2学年・単元名「わたしの町ほっけん」）

ポイント

児童への指導とともに、付き添ってくださる保護者、児童が訪問する地域のお店や公共施設等への事前の依頼、連絡、調整が、「町ほっけん」の成功と充実のポイントとなります。



ポイント

東陽小学校では「町ほっけん」という体験の中に、児童が自分で選択し決定する場面を意図的に設けています。また、身近な環境の中で働く人々との出会いを通して職業理解への扉が開かれ、低学年なりの理解を図ることができます。

《本時のねらい》

グループの仲間と協力しながら、自分の住む町のすてきなところや人等を五感を通して見つけ、町の人たちとかかわりをもつことができる。

《展開》（13・14・15・16 / 33時間） 実践のポイント

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○)キャリア教育の観点から見て特に重要なこと(◎)評価(☆)
導入	1 出発式をする。(実行委員)。 ・めあての確認をする。 ・「町ほっけん」の約束を確認する。 町のすてきなところをたくさん見つけよう。	○実行委員の児童がリーダーシップをとって進められるようにする。
展開	2 グループごとに出発する。 3 グループごとに見学やインタビューを開始する。 <佐藤商店> ・お店ではどんなものを売っているかな。 ・どんなものがよく売れているんだろう。 <グループホーム宮田館> ・どんなお年寄りの方がいるんだろう。 ・毎日どんなことをやってお過ごしているんだろう。 ・働いている人はどれくらいいるんだろう。 <動物愛護センター> ・動物たちは、どれくらいいるんだろう。 ・どんな動物がいるんだろう。 ・動物をお世話するために大変なことは何だろう。 <宮田保育園> ・子どもたちは何人くらいいるんだろう。 ・保育園の先生はどんなお仕事をしているんだろう。	○公共の場でのマナーや挨拶、迷ったときの対処の仕方、安全などについて確認する。 ○あらかじめ巨大地図で、歩く道順を確認できるようにしておき、児童にも、一人一人簡単な地図を持たせて、確かめながら歩けるようにさせる。 ◎自分たちの町の様子や町で働く人々に興味をもち、仕事をしている様子を意欲的に見学させたい。 ○道に迷ったときは、近くの人や歩いている人に尋ねられるようにしておく。 ☆見学の仕方や言葉遣いなどのマナーに気を付けて、自分たちで考えて行動できたか。 ○分かったことや見つけたことをワークシートに記録させる。
まとめ	4 グループごとにお礼の挨拶をして学校へ帰る。 ・東陽小学校のまわりのすてきなところがあったよ。 ・動物愛護センターで働く人の仕事はほっけんしたよ。 ・次は、浅虫の方にも行ってみたいな。	○学校に帰ってから、グループごとに見つけたことや感想を言わせる。

ポイント



「地域商店街の包装紙をデザインする」美術科の授業例

板柳町立板柳中学校

■ポイント

- ・生徒に身近な地元商店街を、題材に取り入れています。
- ・プレゼンテーションを通して、キャリア教育で培いたい能力・態度を意識しています。
- ・ゲストティーチャーとして社会で働くプロの職業人を招き、学習内容と職業・社会生活とを結び付けています。

第2学年美術科 「包装紙のデザイン～地域活性化プロジェクト～」

◎キャリア教育の視点から見た授業構想のポイント

地域の商店で実際に使用されている包装紙のデザインから、身のまわりや生活の中のデザインの働きに関心をもち、自らも関わりながら心豊かに生活を創造していこうとする態度を養う。また、地域の商店街と連携を図り、実際にコンペ形式でプレゼンテーションする活動を通して、自分たちの住む地域の活性化など、社会参画意識も高める。

ポイント
生徒にとって身近な地元商店の包装紙を題材に取り入れることで、デザインの学習と日常生活との関連を効果的に意識させることができました。



ポイント

事前に、各自が取り上げる商店の取材をさせておくと、興味や学習意欲がより高まるでしょう。

時	生徒の学習活動
1	● 題材をつかむ ・包装紙の要素等について理解し、商品の特徴、イメージ、購入する人の気持ちなどを踏まえて発想し、表現の構想をもつ。
2	● 構想を練る ・企画書のアイディアスケッチを基に、各自のデザインのコンセプトをグループで説明し合う。 ・他者の助言等を基に、構想に修正を加え、アイディアスケッチを練り直す。
3	● 包装紙をデザインする ・絵の具やコンピュータなどの特性を生かし、表現方法を工夫して表現する。
4	● プレゼンテーション ・お互いの完成作品を鑑賞し、デザインのコンセプト、構図、色彩や形の効果などの工夫をとらえ、批評し合う。



ポイント

プレゼンテーションを通して、「つながる力」（人間関係形成・社会形成能力）や「動く／生かす力」（課題対応能力）が培われるように、意識しながら指導しました。

ポイント

ゲストティーチャー（社会の本物）の活用

単元のまとめとなるプレゼンテーションでは、生徒たちが互いの作品のよさを褒め合う、受容的、共感的な意見交換が行われました。自分のデザインした包装紙が評価され、一様に満足の表情を浮かべていた生徒たちでしたが、本時の授業はこれで終わりませんでした。キャリア教育の視点を生かし、生徒の学びをもっと充実させようと授業者が招いたのは、実社会で活躍する本物のデザイナーさん（ロゴやパッケージなどのデザインをするグラフィックデザイナー）の赤石さんでした。

社会で働く本物のデザイナーが語る言葉は生徒たちに衝撃を与えました。（以下、その概要。「」は赤石さんの話した内容です。）



「みなさんの作品に見られる緑や青の色使いには、自然豊かな郷土で育つことで培われた個性が光っていますね。これは、みなさん一人一人のアイデンティティに通じるものです。ローカルだからこそ培われた自分らしさをグローバルな世界に発信していくこと、これはデザインの世界でもとても大切なことです。そういう意味でみなさんの包装紙デザインは素晴らしいものだと思います。」

プロに認められ、生徒の表情も思わずほころびました。



「しかし、デザインのプロとして言わせてもらえば、みなさんの作品は不合格です。」

瞬間、生徒の表情から、スーッと笑顔が消えていきました。



「みなさんは、包装紙のデザインにそれぞれの思いを込めましたが、それを使う人々、お客さんの姿や気持ちを想像しながらデザインしましたか？野菜の新鮮さを伝えようとした水色の包装紙、お客さんが買い求める新鮮な野菜は本当に水に漬かった野菜でしょうか？漢字の店名ロゴが大きく書かれた花屋の包装紙、恋人に贈る花束に使うとしたら、どうでしょう？……。使う人たちの幸せにつながるデザインをするのが、私の仕事です。デザインという仕事は、社会の人々の役に立つためにあるのです。」

生徒たちは瞳は真剣さと前向きさに輝き、それぞれが自分のデザインを再び考え始めました。自己満足で終わることなく、社会の役に立つ、幸せをつくるデザインを考え始めたのです。



ポイント

こうしたゲストティーチャーの活用には、授業者との事前打合せが重要です。この授業の際も、授業者はゲストティーチャーと何度も会い、授業のねらい、生徒に伝えたいこと、授業の流れ等について共通理解を図ったそうです。

「他者とつながる力を指導過程に位置付けた」 数学の授業例

南部町立名川中学校

■ポイント

- ・校内研究で、キャリア教育の推進による授業の充実に取り組み、単元で培いたい資質、能力、態度を単元構想に生かしています。
- ・学習課題を工夫することで、学習意欲の向上、学ぶことの自覚を促しています。
- ・キャリア教育の視点から重要と思われる点を指導過程に位置付け、意識的に指導しています。

第1学年数学「方程式」の学習指導案の一部です。

(6) 校内研との関連

本校校内研研究主題は「学ぶ意欲を高め主体的に学習に取り組む生徒の育成～教科センター方式とキャリアの視点を生かした教科指導の工夫を通して～」であり、数学科研究主題は「基礎的・基本的内容の理解を深め、論理的な思考力を高める指導法研究」である。本校数学科では、全学年T.Tで授業を展開している。基礎的・基本的内容の理解を深めるため、1学年では、T1が授業を進め、T2が下位生徒の支援にあたる形式をとっている。今回の授業では、普段生徒たちが目にしてものを題材として活用し、キャップの個数をどう求めるかを考えることにより、論理的な思考力を高めることにつながるであろうと考えられる。また、キャリアの視点として本単元では以下の4点が位置づけられている。

- ① 粘り強く考えたり練習することを通して、自己肯定感を高めようとする。【自己を見つめる力】
- ② 方程式の学習を通して、新しい計算法について考察し、対応する。【動く/生かす力】
- ③ 他者の意見との意見交換を通して、考えを質的に高めたりする。【つながる力】
- ④ 段階を経て学ぶことの良さを様々な課題に対応することにかそうとする。【育つ力】

本時では、大量のキャップの個数を調べる方法を、少ない量の求め方を体験するという形で、キャリアの視点④につながっていくとも思われる。また、ささいなことでも話し合うよりの視点③の力を育てることも意識して授業を展開していきたい。

(7) 展開

段階	指導内容 (教師の働きかけ：T1)	学習内容 (予想される生徒の反応)	評価 キャリアの視点	留意点
導入 5分	1 本時の課題を提示する。	1 学習課題を把握する。		
	2 調べる方法を発表させる。	2 調べる方法を発表する。 ・ひとつずつ数える。 ・重さをはかって調べる。		尋ねてから、実物を生徒に提示する。

【課題】

名川中学校ではプラスチックケースにペットボトルのキャップを集めています。このケースに何個入っているか調べるにはどうすればよいですか。

ポイント

生徒にとって身近な学校生活と関連付けた学習課題を工夫することで、学習意欲の向上や学ぶことの価値の自覚をうながしています。

ポイント
校内研究にキャリア教育の視点を生かした教科指導の工夫を取り入れ、培いたい資質・能力・態度を単元に位置付けています。



第2学年音楽科学習指導案の一部です。

題材名 混声合唱の響き「COSMOS」(本時2/8)

8. 展開

時	指導内容	学習
導入 5分	1. あいさつ	1. 号令原 つをする
	2. 既習曲の合唱	2. 課題曲 を合唱する
展 開 40分	3. 目標の提示 旋律の動きや記号に気をつけ 音取りを行い、豊かな響きのあ らう。	
	4. 記号、ポイントの 確認	4. 楽譜を の記号の を確認する。
	5. パート練習(15分) ソプラノ：多目的ホール アルト：多目的ホール 男 子：音楽室	5. 旋律の動きや記号を意 識しながら、パート練習をす る。 【仮説の検証場面】 パートリーダーを中心 に協力しながら取り組 むことによって、個人 が自信を持って歌得る ようになり、パートの 声がまとまることがで きる。
	6. 2パート合わせ練 習(15分) ソプラノ&アルト：音楽 室	6. 相手のパートとのハーモ ニーを意識しながら、自分 のパートをしっかりと歌う。

5. 旋律の動きや記号を意識しながら、パート練習をする。

【仮説の検証場面】
パートリーダーを中心に協力しながら取り組むことによって、個人が自信を持って歌得るようになり、パートの声がまとまることができる。

6. 相手のパートとのハーモニーを意識しながら、自分のパートをしっかりと歌う。

5. 【評価①：観察】
*手立て→旋律の動きや記号を表現できていない生徒には、意味を確認して意識して合唱することを促す。

【キャリアの視点】
・他者とつながる力
(人間関係形成・社会形成能力)

6. 【評価②：観察】
*手立て→相手につられたり、ハーモニーが意識できていない生徒には、自分の声をしっかりと出すことを促す。

5. パートリーダーがうまく進めているか、確認する。

6. 上手くハーモニーできない場合は、そのパートの音取りをして確実に歌えるようする。

〔一部を拡大〕

ポイント
キャリア教育の視点から重要と思われる点を、指導過程に位置付けて明記することで、意識的な指導ができます。

一人ひとりの声を合わせ、響き合う合唱の喜びを味わうために、キャリアの他者とつながる力(人間関係形成・社会形成能力)の視点から、パート練習を設定し、リーダーを中心に協力しながら取り組みます。
それぞれのパートの歌声を合わせるために、一人ひとりが主体的に取り組み、ハーモニーを意識した合唱に取り組むことで、パートの声がまとまり、全体合唱につながる可以考虑。

授業者の思い



※キャリア教育で育てたい「基礎的・汎用的能力」の1つである「人間関係形成・社会形成能力」の具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられます。

「指導過程にキャリア教育の視点を取り入れた」 数学の授業例

青森県立板柳高等学校

■ポイント

高等学校の各教科等の指導においても、培いたい資質・能力・態度を踏まえた学習活動を、指導過程に位置付けて、授業改善に取り組むことができます。

青森県立板柳高等学校 数学科（数学Ⅰ）学習指導案

- 1 大単元の目標 数に関する概念の理解や、数の計算、基本的な式の変形を十分に確認させ、さらに深く理解させることで新しい内容に応用できるようにする。
- 2 大単元の学習計画 1節 整式 2節 実数 **3節 1次不等式**
- 3 本時の小単元名 連立不等式
- 4 本時の目標 (1) 具体的な事象の考察に、不等式を活用することができる。
(2) 仲間と協力して課題に取り組み、聞き手が理解しやすいように、論理的に筋道を立てて説明することができる。

5 本時の学習展開

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等 キャリア教育の視点☆	時間	
導入	・挨拶と出欠確認 ・〈不等式的应用〉 (1次不等式の復習問題) $80x + 120(10 - x) \leq 900$	・復習問題を解く。 ・指名された生徒は発問に答える。	・復習問題を解くように指示する。 ・発問しながら解答	・復習問題を解こうとしているか。		
展開	・例題5の解説 1個80円のみかんと1個120円のみかんとをあわせて10個買い、900円以下にしたい。 みかんなをなるべく少なく買うとき、みかんとりんごはそれぞれ何個ずつ買えばよいか。	・教師の説明を聞きながら、板書内容をノートに書き写す。 ・指名された生徒は発問に答える。	・例題5を解説する。 ・既習事項を覚えてきているか、発問	・復習問題を解こうとしているか。 ・3人のグループになるように指示し、相談しながら、教え合いながら問題を解かせる。 ・問題が解けたグループは、解答を説明できるように練習させる。 ・2グループを指名し、発表させる。 ・不等式を解いただけでは、答えにならない場合があることを強調して説明する。	☆仲間と協力して課題を解こうとしているか。 [人間関係形成・社会形成能力] ☆聞き手が理解しやすいように、論理的に筋道を立てて説明しようとしているか。[課題対応能力] ・発表や説明を聞き、本時の学習内容を理解できたか。	
	・練習11 1本40円の鉛筆と1本350円のボールペンをあわせて10本買い、1500円以下にしたい。 40円の鉛筆をなるべく少なく買うとき、鉛筆とボールペンはそれぞれ何本ずつ買えばよいか。 ・練習11の解答	・練習11を一人で解く。 ・3人のグループになり、相談しながら、教え合いながら問題を解く。 ・グループで、解答の説明を練習する。 ・指名された生徒は、黒板の前に出て発表する。	・練習11を各自、解くように指示 ・練習11を解こうとしているか。 [関心・意欲・態度] ・3人のグループになるように指示し、相談しながら、教え合いながら問題を解かせる。 ・問題が解けたグループは、解答を説明できるように練習させる。 ・2グループを指名し、発表させる。	☆仲間と協力して課題を解こうとしているか。 [人間関係形成能力] ☆聞き手が理解しやすいように、論理的に筋道を立てて説明しようとしているか。[課題対応能力]	☆発表や説明を聞き、本時の学習内容を理解できたか。 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】	40分
まとめ	・本時の学習内容のまとめ	・大事なポイントの説明を聞く。	・不等式を解いただけでは、答えにならない場合があることを、強調して説明する。 ・キャリア教育の視点からグループ活動を行っていることを説明する。	・発表や説明を聞き、本時の学習内容を理解できたか。 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】	3分	

ポイント

評価の観点・方法等
キャリア教育の視点
を取り入れています。

〔一部を拡大〕

ポイント

学習指導案に、キャリア教育の視点から重要と思われる点を記載し(☆印で強調)、意識的に指導しています。



ポイント

高等学校でも、キャリア教育の視点から培いたい資質・能力・態度を意識して指導したり、活動させたりすることが大切ですね。



「岩木川との関わりをテーマにした」 総合的な学習の時間の授業例

板柳町立板柳南小学校

■ポイント

- ・地域の自然を題材にすることで、郷土に対する愛着を深めることが期待されます。
- ・現地調査や地域の取材を通して、実感を伴って学ぶ活動が位置付けられています。
- ・地域を支える大人の姿に触れさせることで、自分の生き方を深く考えさせています。
- ・郷土を支える地域の一員としての自覚や自己の役割、将来の生き方を考えさせています。

第5学年総合的な学習の時間

第5学年 ワクナン年間指導計画 計70時間

テーマ	<p style="text-align: center;">ポイント</p> <p style="text-align: center;">見つめよう ふるさとの川 ～岩木川の自然や歴史から学ぶ～</p>
-----	--

<教師の願い>

- ・子どもたちが普段何気なく見ている地域の川「岩木川」に関心をもたせ、ふるさとへの愛着を深めさせたい。
- ・グループでの学習を進めたり、意見交換したりすることで、協同的に学習することのよさを体験させながら、友達と一緒に学んでいこうとする態度を育てたい。

<単元の目標>

- ・地域の川「岩木川」を体験的に調べる活動を通して、課題を見付け、解決に向けて意欲的に追究しようとする。 〈関心・意欲・態度〉
- ・友達と協力しながら、課題を設定したり、情報を集めたり、まとめたりすることができる。 〈課題解決能力〉
- ・岩木川の学習で学んだことを通して、ふるさとへの愛着を深める。 〈自己の生き方〉

月 曜	学 習 活 動	ポイント
	小単元1「岩木川を調べよう」	
4月	①「赤石川と比較しながら、疑問に思ったことを調べよう」 ・インターネットで調べる～川の形態、生き物史など。	<p>現地調査や地元の大人への取材を通して、実感を伴った学びを促しています。</p> <p>○ゲストティーチャーは、浅利さん（飯田）。</p>
5月	②「実際に岩木川へ行って調べよう」 ・水や川原の汚れや動植物のことを調査する。	
6月	③「岩木川で釣りをしている人から話を聞こう」 ・岩木川には、鯉や鮎などの魚が生息していること。 ・昔は川の自然が豊かで魚がたくさんいたが、今は魚が少なくなったこと。	
6月	④「海童神社を見学しよう」～岩木川の近くにある神社に立ち寄る。 ・「海」という字がついているのはなぜか。 ・岩木川の近くにあるのは、川と関係があるのか。	

ポイント
児童が普段何気なく見ている地域の川を題材にする中で、郷土に対する愛着を深めさせたいという教師の願いが基盤になっています。



7 月 ・ 8 月 ・ 9 月 ・ 10 月 ・ 11 月	<p style="text-align: center;">小单元2 「岩木川のひみつを調べよう」</p> <p>① 「グループに分かれて調べよう」</p> <p>A 川の汚れチーム（3人） B 生き物チーム（10人） C 魚チーム（14人） D 川の利用チーム（4人） E 歴史チーム（5人） F 十三湖チーム（4人） G 白神山地チーム（13人）</p> <p>② 「調べたことをまとめよう」 ○自分たちの調べたことが、友達によく伝わるように工夫してまとめる。</p> <p>③ 「情報交換会をしよう」</p> <p>A…にごっていた。においはあまりなかった。 B…魚はあまりいなかった。虫は成虫になってしまっていて、見つけられなかった。 C…雨が降ったあとで、水にごっていて魚がいなかった。鮎がいた。 D…釣りをしている人がいた。釣ってみたらあまりつれなかった。 E…「大川」→「弘前川」→「岩木川」と呼ばれるようになった。 数え切れない洪水があり、大勢の人で改修工事をした。 F…しじみ、エビ、フグがとれる。岩木川よりよごれている。 G…白神山地から十三湖までの川。白神山地のはじにある「暗門川」が「岩木川」の源流。</p> <p>④ 「昔と今を比べながら、もっと調べてみよう」 ○「昔」と「今」というキーワードで更に詳しく調べる。</p> <p>⑤ 「調べたことをまとめよう」 ○調べたことを「昔」と「今」という視点で短冊にまとめる。</p> <p>⑥ 「情報交換会をしよう」《本時》</p> <p>A…昔はすきとおっていてきれいだった。生活排水のせいで汚れていたこともあるが、下水処理場ができて現在の川の水はきれいな方である。 B…きれいな水にいる水生生物や昆虫類、稀少な鳥類などが生息している。 C…鯉、鮎、ウグイなどが生息している。昔は、カレイやヤツメウナギもいた。 D…昔は、川の水が身近にあった。現在は農業用水として利用。 E…水運（海運）が盛んで町が栄えていた。洪水の被害も多かった。</p>	<p>< 8月30日 > ○水生生物調査などは、青森県河川国道事務所の協力を得る。 ○釣り体験は、浅利さんの協力を得る。</p> <p>< 9月 > ○川の利用については、竹浪酒造店や町役場の協力を得る。 ○川の歴史については、工藤泰博さん（文化財保護員）や海童神社の協力を得る。</p>
--	---	--

ポイント
調べたことの情報交換会を通して、「つながる力」（人間関係形成・社会形成能力）や「動く／生かす力」（課題対応能力）なども培われていきます。

ポイント
地域を支えるいろいろな仕事に携わる大人たちをゲストティーチャーにして、地域の自然と関わりながら生きる姿を感じ取らせています。

12 月 ・ 1 月 ・ 2 月 ・ 3 月 ・ 3 0 月	<p style="text-align: center;">小单元3 「岩木川とわたしたち」</p> <p>① 「自分たちにできることを考えよう」 ○自分の考えが友達によく伝わるように、工夫してまとめる。</p> <p>② 「自分の考えを伝え合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川をこれ以上汚したくない。 ・川沿いにごみを捨てない。拾ってきれいにしたい。 ・川でいろいろな魚を釣ったり、生き物を探してみたい。 ・川を大切に、守っていききたい。 <p>③ 「自分たちにできることを実践しよう」</p>	
--	--	--

ポイント 郷土の自然を大切にしたいという気持ちをみんなで共有させながら深めるとともに、自分との関わりを意識しながら実践できること考えさせています。これまでの学習のまとめとして、郷土を支える地域の一員として自覚や誇りをもった生き方につながる心情を大切に育てていきます。地域のためにできること、役立つ自分を自覚させることがポイントです。

「自分のよさや生活とのつながりを意識させた」 クラブ活動の展開例

板柳町立小阿弥小学校

■ポイント

- ・キャリア教育の能力観に基づいて「付けたい力」を整理し、単元を通して育成を目指す児童の姿を具体的に想定しています。
- ・地域のさまざまな大人たちを外部講師として活用し、自分と地域社会のつながりを意識させています。
- ・自分のよさ、自分らしさを大切にし、将来に生かそうとする態度を大切にしています。

1 題材 「クラブ活動発表会」を通して「自分」を振り返ろう。

「クラブ活動発表会」で、各自のねらいと成果や自分の成長を発表し合うことによって、自他のよさを発見して人間関係を形成する大切さを学ぶとともに、自分の成長について考える契機とする。

◎キャリア教育の目標と目指す児童の姿

能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア・ プランニング能力
中学 年の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・返事やあいさつ「ありがとう・ごめんなさい」が言える。 ・相手の意見を聞き、自分の考えを話すことができる。 ・友達と励まし合ったり助け合ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや得意なことが分かり、自分を大切にできる。 ・好きなものややりたいこと、よいと思うことを自分の考えで選ぶことができる。 ・場面や状況に応じ、自分の考えで行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や活動のねらいが分かる。 ・学習や活動を進めるための方法を考えることができる。 ・難しいことでも、できるまで取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人自分の役割を果たすことが、みんなのためになることに気付く。 ・色々な職業によって社会が成り立っていることを知り関心を持つ。 ・将来なりたい職業や、やってみたい仕事があるしなければならぬと考える。
高学 年の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉づかいで返事やあいさつができる。 ・相手の意見を聞き、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 ・相手の気持ちを考え協力し合って学習や活動をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や自分らしさが分かり自分を大切にできる。 ・やりたいことや自分に向いていること、自分を高める活動を自分で選ぶことができる。 ・場面や状況に応じ適切な行動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や活動の中で課題を見つけることができる。 ・多様な方法を考えて課題に取り組むことができる。 ・難しいことや苦手なことでも、やり遂げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、仕事をすることで人々の生活や社会の役に立つことがわかる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く、自分の将来を考えることができる。 ・将来の職業や生き方を考え、今しなければならぬことに進んで取り組むことができる。
目指す 児童の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表したり質問し合ったりして自他のよさを見つけ、お互いに尊重し合う意識や態度を養うことで、人間関係を向上させようとしている。 ・異年齢の「仲間のよさ」を見つけるとともに「自分のよさ」を自覚し伸ばそうとしている。 ・自分を振り返り「自他の成長」について改めて考えている。 ・パワーポイント作成や、全体での発表というプレッシャー、質問に対する臨機応変の対応等、困難な状況にあっても、あきらめることなく解決に向けて努力している。 ・様々な体験活動が生活の向上と将来の自分の生き方に役立つという意識をしている。 			

ポイント

ポイント

学習活動を進めるに当たって、「付けたい力」を整理し、本単元の学習を通して育成を目指す児童の姿を具体的に想定しています。培いたい資質・能力・態度は、互いに関連し合い包括的にとらえられるので、こうした工夫も有効と考えられます。



◎本時の活動過程

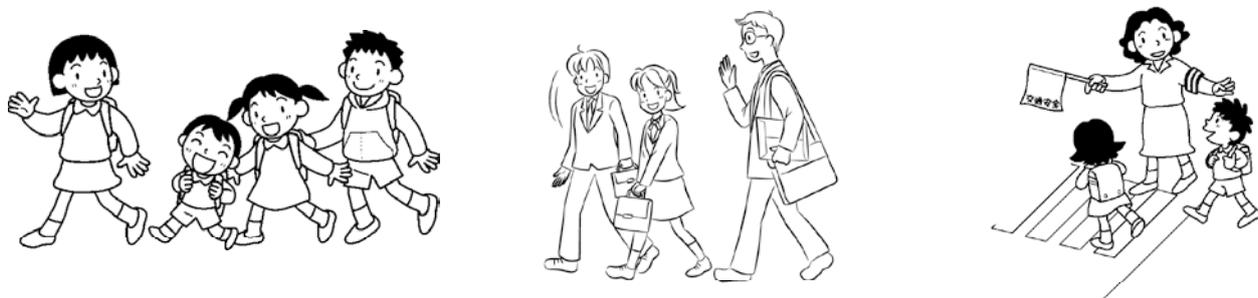
段階	教師の働きかけ (活動の要点)	児童の活動	指導上の留意点と評価等 ・留意点 ○ 評価 ◆ 支援や手立て ☆ キャリア教育の視点
※ 「クラブ活動DVD」を流す。(授業開始10分前～授業開始まで)			
導入 3分	(授業開始のあいさつ) 1. 「めあて」の確認。 「クラブ活動発表会」で「自分」をふり返ろう。 2. 本日の流れの確認。 発表(後半4～6) 3. 「3つのポイント」の確認	・全員で読む。 ・代表児童が行う。 ・児童が紙を黒板に貼る ・堂々と発表 ・よい点(頑張ったこと)見つけ発表 ・「自分」をふり返る	・スクリーン、パソコン、プロジェクター準備。 ・代表児童が司会。 ・最初から「めあて」掲示。 ・児童の座席はクラブごと。 ポイント 地域の様々な方に外部講師を依頼し、児童にとって楽しいクラブ活動が展開されています。活動内容と自分の生き方との関わりを感じさせる指導の工夫が、キャリア教育の視点としては有効と考えられます。
展開① 30分	4. クラブ(後半4～6)の発表と意見交換。 発表5分 意見交換5分 ×3クラブ=計30分 ・「ワークシート」活用	・クラブ長を中心にパワーポイントで活動内容と成果を発表。 ・発表者、機器操作などは全て各クラブごとに決めて行う。 ・意見交換は「質問・感想」とし、クラブ長が応える。 ・1つのクラブの発表5分、意見交換5分とする。時間を超過しないように「タイマー」を使用。 (タイマー係の児童)	○ 評価①(観察) 「クラブ活動」の内容や成果、自分の成長について、視聴覚機器を用い工夫して堂々と発表している。 ○ 評価②(観察) 積極的に質問したり感想を述べ合ったりして自他のよさを認め合い、よりよい人間関係を築こうとしている。 ☆ キャリア教育の視点 相手のよさを見つけて発表し、よりよい人間関係を築こうとする。 (人間関係形成・社会形成能力) 自分のよさや自分らしさが分かり大切にしようとする。 (自己理解・自己管理能力)
展開② 7分	5. 「自分」を振り返る。 ・「ワークシート」活用 ・ワークシートを教師が説明する	・自分のよさに気づき、自分らしさを大切に する気持ちや自己の成長を今後の生活に生かそうする態度を養うことを重視しています。	○ 評価③(ワークシート) 自分を振り返り自分の成長についてワークシートに記入し今後の生活に生かそうとしている。 ☆ キャリア教育の視点 自分の成長(出来たことや頑張ったこと)を確認してワークシートに記入し、これからの生活や行事に生かそうとする。 (キャリア・プランニング能力)
まとめ 5分	(板書か掲示) ・教師の授業の感想	6. まとめ ・「ワークシート」について発表	・時間が少ないので数人。 ・堂々と発表できた。 ・「仲間」のいいところ(頑張ったところ)を見つけた。 ・「自分」のいいところ(出来たこと・頑張ったこと)が分かった。 ・みんなと協力して活動出来た。これから仲良く活動していきたい。 ・これからも高学年として下級生をリードしていきたい。 ・次のクラブ(最終回)を、いい形で終わらせたい。

(2) 日常の学校生活を充実させるキャリア教育のアプローチ

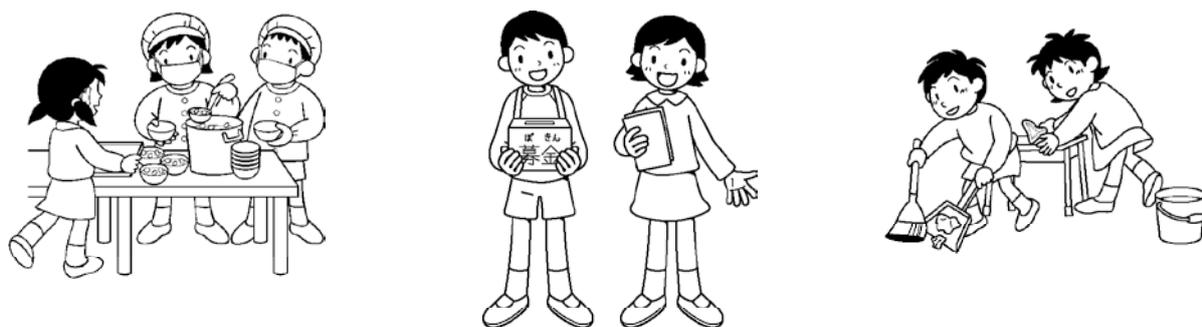
キャリア教育の視点を生かすことは、日常の学校生活を充実させることにも有効です。例えば、清掃や給食などの当番活動や学級の係活動、あいさつや言葉遣いの指導などもキャリア教育の重要な機会となります。当番活動や係活動、基本的な生活習慣の指導等において、児童生徒に培いたい資質・能力・態度はどのようなものか、キャリア教育の視点から見つめ直したとき、教師の指導の在り方が変わり、児童生徒の「やらされ感」も解消されることが期待できます。

学校生活の維持と向上を意識し、自他のよりよい生活のために率先して清掃活動に取り組む児童生徒を育てるには、どのような働きかけをすればよいのか。児童生徒が創意工夫を生かし、学級生活を楽しく快適なものにするために主体的に係活動に取り組むようにするには、どのようなしなかけをすればよいのか。時と場に応じた適切で気持ちのよいあいさつや言葉遣いが、いつでもできる児童生徒を育てるには、どうすればいいのか。こうした課題を解決するために、キャリア教育の視点から、指導を工夫・改善することが求められます。

「何のため、誰のために、誰が、いつ行うのか。」「今する活動や行動が自分の生活や将来の成長とどう結び付いていくのか。」「なぜそれを行う必要があるのか、何をすべきなのか。」「どのようにそれをすればよいのか。」ということを考えさせ、活動・行動の意義や価値を自覚させることが、児童生徒の自発性や主体性の向上につながります。また、活動や日常生活の振り返りを工夫することで、意義や価値の自覚を深めることが大切です。



学校生活には、キャリア教育の機会がたくさんあります。



はたらく心を育てる清掃活動例

平川市立碓ヶ関小学校

■ポイント

- 「学校のために働く」意識を高めることをねらいとして、年に2回、清掃強調週間を実施しています。
- 「ふり返しカード」を活用し、めあてについて自己評価をさせることによって、勤労観の形成を支援しています。



ポイント

普段は当番活動という意識で行っている清掃ですが、強調週間には「学校のために働き、貢献する」という意識が高まるよう指導を工夫することで、キャリア教育の推進につなげています。

ポイント

小学校では、清掃活動を縦割り班で行うことで、「つながる力（人間関係形成能力）」を培いながら勤労観の自己形成を支援する取組も多く見られますね。



ふりかえり感想カード	
月 日 ()	担当場所:
年 組	
自分の仕事	
めあてと感想	※学校をきれいにするために、進んで働きましょう。

ポイント

日常の清掃当番においても、キャリア教育の視点で、めあてを意識させれば、自己の役割の理解し、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動といった【自己理解・自己管理能力】を培うことができます。

働く自分の姿を振り返らせることで、培いたい資質・能力・態度を意識させることが大切です。

清掃活動は日常の当番活動としてだけでなく、各学校や地域のボランティア活動としても多くの学校で取り組まれています。奉仕の精神や社会参画の意識を高めることをねらいとして実施している例も多いでしょう。体験活動を通して様々な資質・能力・態度が培われますが、指導に当たっては目指す児童生徒の姿を具体化し、ねらいを焦点化することで、学校全体の指導の体系化、系統化が図られます。



板柳北小学校のゴミ拾いボランティア活動の様子

児童が主体的に実践する「あいさつ運動」の例

板柳町立板柳東小学校

■ポイント

- ・「動く／生かす力（課題対応能力）」を意識して、児童の思いや考えを生かし、より主体的に活動するよう導いています。
- ・活動の振り返りを通して、「つながる力（人間関係形成・社会形成能力）」や「動く／生かす力（課題対応能力）」が培われています。

6年生の学級活動で、あいさつ運動の活性化のための話し合いをしました。指導のねらいは、次の3つです。

- ①「なぜあいさつは大切なのか」を考えさせ、目的意識を高めること。
- ②あいさつ運動を成功させるためには一人一人の役割を果たすことが必要であることに気付かせること。
- ③あいさつ運動を成功させるためにはどうしたらよいか、自分の考え・目標をもたせること。



ポイント

本時の展開

段階	活動の要点	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法 活用する資料等の留意点
導入 十分	①活動のねらいの把握 ・題材の確認 ・課題と実態の把握	・自分が普段しているあいさつについてよいところ、直した方がいいところなどを振り返る。 ・アンケート調査の結果から、あいさつ運動の意義とその課題について知る。	・あいさつの大切さについて考えさせ、あいさつ運動のよさについて気づくようにさせる。	・課題の重要性について理解している。 知識・理解【観察】 ・アンケート調査の結果や画像の提示。
展開 二十分	②ねらい達成への対応1 ・課題の原因や様々な問題について知る ③ねらい達成への対応2 ・課題の解決方法などについて考える。	・課題の原因や様々な問題について知る。 ・課題の解決方法などについて考える。 	・課題の原因について理解し、どうしても改善が必要であることが実感できるようにする。 ・様々な解決方法が出し合えるようにする。 ・お互いに意見を出し合う中で、朝のあいさつにもっと6年生のよさを生かしているという思いを高める。	・課題の原因（リスク・影響・仕組みなど）について理解している。 知識・理解【発表・観察】 ・課題の解決方法について考えている。 思考・判断・実践【観察】
まとめ 十五分	④まとめの活動 ・自分の課題にあった「努力すること」を決める。 ⑤今後の実践について	・自分の課題にあった「努力すべきこと」を決める。（自己決定） ・互いに自分の努力すべきことを発表し合う。 ・教師の話を聞く。	・自己決定の内容が、自分自身のこれまでを振り返り、実践に向けてより具体的なものになっているか班で意見交換させ、確認するようにする。 ・友だちに自分のめあてを発表し、それについてコメントをもらうようにすることで、これからの実践に向け、意欲を高めるようにする。 ・協力し合い、一人一人が努力できるように励ます。	・自分の課題に合った実行可能な取り組みや方法などを決めている。 思考・判断・実践【発表、「有言実行カード」】 

あいさつ運動実施経緯

○あいさつは、なぜあるのか？ なぜ必要なのか？

- ・人とのコミュニケーション …… 78%
- ・人との関わりを深めるため …… 15%
- ・1日の始まり(終わり)の合図だから 15%
- ・明るいふんばりにするから …… 8%
- ・気分をよくするため …… 8%
- ・みんなが明るくなるから …… 8%
- ・あいさつをしないと感じが悪い …… 8%

あいさつ運動実施経緯

○そのために、あなたができることは何か？

- ・自分からあいさつ …… 54%
- ・手本となるようなあいさつ …… 31%
- ・積極的に、いい呼びかけ・笑顔で元気
- ・いろいろな人に明るいあいさつ
- ・職員室に明るくさわやかなあいさつ
- ・計画委員と一緒にやってみる ・たくさん

ポイント

学校や学級の実態から取り組むべき課題に気付かせる働きかけが効果的ですね。あいさつの意義や価値を確認し、自分ができていることを決めることで、主体的な実践につながっています。

課題発見、原因分析、対策を練る協議、実践内容の決定という流れは、キャリア教育の視点から培いたい「課題対応能力」に当てはまります。

学校生活の向上のために、自分ができていることを考え、実践する意欲や態度は、将来の社会生活にも生かされていくでしょう。



児童一人一人が決めた「あいさつ運動」活性化対策

- なるべく近くに行き、目を合わせて、そして積極的にあいさつをする。
- 積極的にあいさつをし、目を合わせて言い、かぜをひいていても元気な声で言う。
- 少しでも近づいて、名前を言って、積極的にあいさつをする。
- 笑顔であいさつをする。あいさつされた人が気持ちのいいあいさつをする。
- 来た人の目を見て、積極的に大きな声であいさつをする。

学級通信「千里の道も一歩から」



“あいさつ運動大作戦” 試行中！

月曜日の学級活動で「朝のあいさつ運動」をやってもなかなかあいさつが広がらないのはなぜか、どうしたら今よりいいあいさつが広がる学校になるのか、そのために5年生にできることは何か、なについて話し合いました。

相手の近くに行きあいさつすればいい、目を見て言う、名前を呼んであいさつする、自分から積極的にする、というような具体的な方策がたくさん出されました。その中から、自分にできるものを決めて、現在取り組んでいる最中です。「有言実行」できるようにお互い励まし合ってがんばろうと確認しました。

翌日の火曜日から実践開始！と決まらず1週間の期限付きで取り組んでいます。7:30～のグループと7:40～のグループがあり来週月曜日まで継続します。朝の苦手な子ども、どちらかの時間に間に合うように登校させてください。よろしくお願ひします。

〈京平君の三行日記から〉今日の五時時間目に学級会をしました。あいさつについてでした。どうしたら相手や自分が明るくなるのかなど考えました。明日からあいさつをがんばりたいです。



ポイント

学校生活の向上のために自分たちにできることを考えさせ、自分自身が果たす役割をできるだけ具体的に決めさせることが大切です。



いつ 明日から一週間
どこで 職員玄関の辺り
時間 7:30～7:40 6人
7:40～7:50 7人

有言実行！

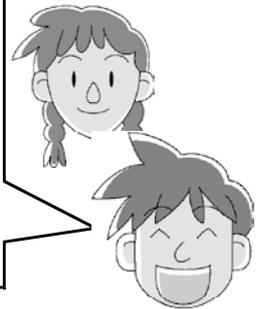


意義や目的を自覚し、目標をもって取り組むことで、主体的なあいさつ運動になりました。



1週間の「あいさつ運動大作戦」を終えた感想です。

- ・はじめは、ほとんどあいさつを返してくれなかったけど、日ごとにだんだんあいさつを返してくれてうれしかったです。もっとあいさつ運動を続けたいと思いました。
- ・ぼくは、名前を呼んであいさつしてみたらたくさん返事が返ってきたのでとても安心しました。
- ・1週間だけだったけど、あいさつは前よりよくなったかもしれない。これからも私は、自分から見習ってもらえるあいさつをしていく。
- ・はじめは、みんながあいさつを返してくれると思っていたけど、案外、返してくれない人もいてどうしたらよくなるかを考えた。もっと大きい声でやってみようと思ってやってみたら、少しだけでも返してくれる人が増えてよかったです。



ポイント

「（相手が）あいさつを返してくれてうれしかった。」「もっとあいさつ運動を続けたい。」「自分から見習ってもらえるあいさつをしていく。」という感想をもった児童は、今後も率先してあいさつをすることでしょう。「つながる力（人間関係形成・社会形成能力）」が培われていきます。また、どうしたらよくなるかを考え、名前を呼んだり、大きな声にしたりと工夫した児童は、「動く／生かす力（課題対応能力）」を発揮したと言えます。